

第5学年 総合的な学習の時間学習指導案

授業者 5年2組 長谷部 友美

1 単元名 「お米のみりよく再発見 ～知っていた？お米のひみつ～」

2 単元について Plan

(1) 単元の目標

お米に関する調べ学習を通して、農家の方々や消費者の願いや思いに関心をもち、自分で調べた知識をもとに課題の設定や解決を図り、自分の考えを発信していこうとする態度を養う。

(2) 単元の評価規準

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	主体的に学習に取り組む態度
◇知識を広げたり、深めたりすることができる。 ◇コミュニケーションの方法やツールを活用する技能を身に付けることができる。 ◇課題解決の方向性や価値を見出すことができる。	◇自ら課題を決定し、解決に向けた計画を立てることができる。 ◇資料を活用し、情報を集め、整理・分析を進めることができる。 ◇まとめや表現の方法を工夫することができる。	◇主体的・協働的に課題解決に取り組むことができる。 ◇互いのよさを生かしながら、自分の考えを交えて伝えることができる。 ◇積極的に文化の継承や発展に関わろうとする思いをもつことができる。

(3) 単元の設定理由

代々椎名町小学校の5年生は、学校園の田んぼで米作りを行っているので、今年は自分たちが作るのだという意欲をもっている。また、社会科とからめて学習を進めていくので、学級全体が米についての基本的な知識（教科書の内容）がある。このことから、発表でお互いに助言し合う際に、態度や姿勢以外の内容についての改善を伝え合うことができると考える。

3 児童の実態

4年生から発表をくりかえし取り入れ、練習を行ってきたので、自分たちで工夫して、発表を行うことができる。しかし、友達の発表を聞いてアドバイスする際に、態度や姿勢についての意見が、まだまだ多い。

本単元では内容について踏み込んだアドバイスができるようにしたい。そのため、社会科で米の作り方や農家の人々の思い、消費者の思いなどを学習して、全員が基本的な知識をもっている状態にしている。また、発表練習では、撮影したものを見ることによって、自分のことを客観的に見て、分析できるようにしたい。

4 授業づくりの工夫 Do

(1) 参加しやすい学習環境づくり

【学びのユニバーサルデザイン～14の視点】 ○本単元の重点項目

参加	①リレーションづくり		
	②ルールの明確化		
	③刺激量の調整		
	④場の構造化	○	並行読書 授業展開に合わせた座席の変更
	⑤時間の構造化	○	学習の流れのカードの提示
理解	⑥焦点化	○	ピラミッドチャート
	⑦展開の構造化		
	⑧スモールステップ化	○	ワークシート
	⑨視覚化	○	ウェビングマップ フィッシュボーン
	⑩身体性の活用		
	⑪共有化	○	2～4人のグループによる話し合い・聞き合い
習得	⑫スパイラル化	○	計画的な授業展開
活用	⑬適用化	○	ポートフォリオファイルの活用
	⑭機能化	○	中間発表会の設定

(2) 考えを深める学習方略

【思考スキルと思考ツールの活用】 ○本単元の活用

思考スキル	思考ツール		思考スキル	思考ツール	
多面的に見る	X、Y、Wチャート くまで手チャート PMI		見通す	キャンディチャート フィッシュボーン KWL	○
順序立てる	ステップチャート プロット図		抽象化する	ピラミッドチャート	
焦点化する	ピラミッドチャート	○	具体化する	該当なし	
比較する	ベン図		応用する	該当なし	
分類する	ベン図、座標軸		推論する	キャンディチャート	
変化をとらえる	表、座標軸、 同心円チャート		広げてみる	ウェビングマップ	○
関係付ける	コンセプトマップ、表		構造化する	プロット図、バタフライチャート、フィッシュボーン、ピラミッドチャート	
関連付ける	コンセプトマップ				
変換する	該当なし				
理由付ける	クラゲチャート フィッシュボーン		要約する	ステップチャート	
			評価する	KWL、座標軸	

5 単元指導計画（25時間） Plan

過程	時	○主な学習活動 ・留意点	◇評価規準 【評価の観点】
①課題の設定	1 ・ 2	○「椎小米」を育てながら学んできた米について振り返り、学習課題を考える。	◇主体的・協働的に課題解決に取り組むことができる。【主】
	3 ・ 4	○各自の学習課題を決定し、調べ方、まとめ方について計画を立てる。 ・ゲストティーチャーに大学の先生を招く ・ピラミッドチャートを使って、課題をしぼる。	◇課題解決の方向性や価値を見出すことができる。【知技】 ◇自ら課題を決定し、解決に向けた計画を立てることができる。【思判表】
②情報の収集と③整理・分析	5 ～ 10 情報収集・整理・分析	○課題別のグループを作り（2～4人程度）、調べたことや自分たちの考えをまとめる。 ・タブレットPCや図書の本、パンフレットなどを活用して調べさせる。 ・個人→グループ→全体で、情報を共有していく。 ・フィッシュボーン図を使って、情報を整理する。	◇コミュニケーションの方法やツールを活用する技能を身に付けることができる。【知技】 ◇資料を活用し、情報を集め、整理・分析を進めることができる。【思判表】 ◇知識を広げたり、深めたりすることができる。【知技】 ◇まとめや表現の方法を工夫することができる。【思判表】
④まとめ・表現	1 1 ～ 1 6	○発表を撮影し、それを学級全体で見て改善点を出し合う。 ・動画に撮影した発表を見させることによって、自分たちを客観的に評価する。 ・気づいたことをもとに、発表をよりよいものにするために、直す。	◇主体的・協働的に課題解決に取り組むことができる。【主】 ◇まとめや表現の方法を工夫することができる。【思判表】 ◇互いのよさを生かしながら、自分の考えを交えて学んだことを積極的に伝えていくことができる。【主】
	1 7 ～ 2	○ペアになって発表し、互いに良さと改善点を見つけ、学び合う。	◇まとめや表現の方法を工夫することができる。【思判表】
	2 2	○本番の動画を撮影し、手紙を添えて遊佐町のお世話になった方々に送る。	◇互いのよさを生かしながら、自分の考えを交えて学んだことを積極的に伝えていくことができる。【主】
	2 3 ～ 2 5	○この学習で気付いたこと、発見したこと、広げたり深めたりしたこと、自分たちの思いなどを振り返る。 ・遊佐町の方々からの返事を見て、達成感をもたせ、米についてのよさを家庭や地域など、様々な人たちにさらに発信していく。	◇積極的に文化の継承や発展に関わろうとする思いをもつことができる。 【主体的に学習に取り組む態度】

6 本時の学習（2／25時間） Do

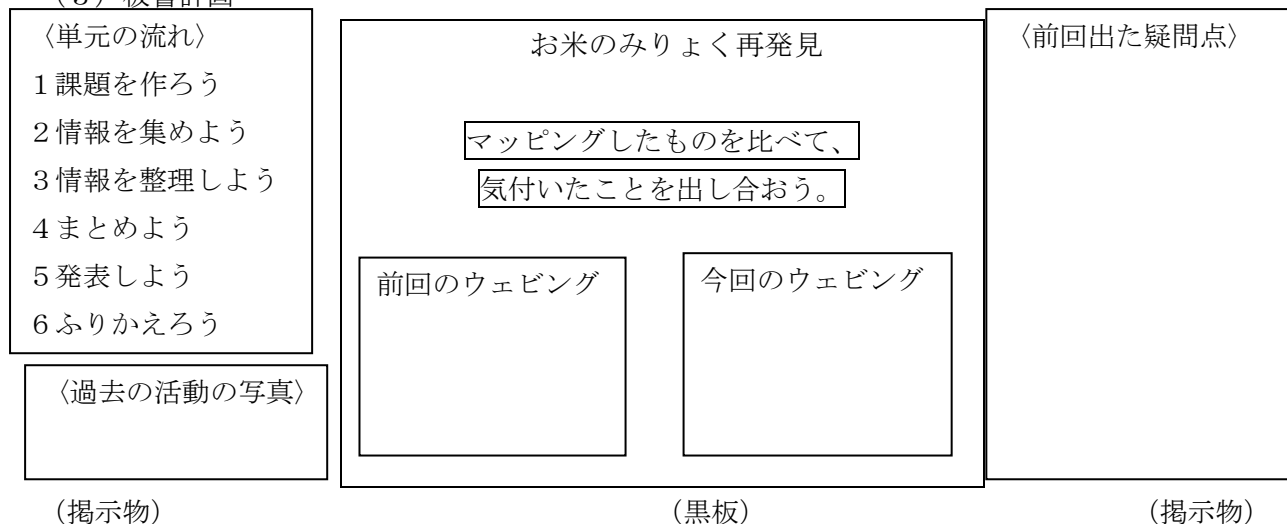
（1）ねらい

○マッピングしたものを比べて、気付いたことを出し合うことができる。

（2）展開

過程	学習活動	○指導上の留意点 ◇評価基準【評価の観点】
ふれる・つかむ（5）	1 本時の学習内容を確認する。 ○なぜ「再発見」なのか考える。 ・お米については元々知っていたけど、学習して、それまで気付かなかったお米のよさを、あらためて知ったから。 ○めあての確認をする。 課題を作ろう マッピングしたものを比べて、気付いたことを出し合おう。	○指導上の留意点 ◇評価基準【評価の観点】 ○単元の流れのカードを掲示し、見通しがもてるようにする。 ○「再発見」の意味を考えさせ、この単元への意識を高めさせる。 ○発表の方法を確認し、意欲を高めさせる。 ○めあてを確認し、振り返りの視点を与えておく。
かんがえる・ひろげる（35）	2 前単元で書いたウェビングマップと、今回のウェビングマップを比べる。 全体で確認し、書き方を知る 1）解決した疑問点に赤丸をつける。 2）もっと知りたいと思ったことを四角で付け加える。 個人でマップを付け加えていく 3 比較して思ったことや気付いたことを出し合い、全体で共有する。 ・米の作り方について詳しくなっていた。（これまでの学習で分かったこと） ・外国のお米との比較はまだできていなかった。（解決していない疑問点） ・社会科で輸入について勉強したので、米の輸入についてもっと調べたい。（もっと知りたいこと）	○前回クラスで行ったウェビングマップを掲示し、全体で比較方法を確認する。 ○児童を前の方に集めておき、近くでウェビングマップが見えるようにする。 ○前回個人で書いたウェビングマップを配り、各自で比べられるようにする。 ○総合のファイルや、社会の教科書、ノートなどを使ってよいことを確認する。 ○早く終わった児童には、もっと知りたいと思ったことを短冊に書かせ、掲示できるようにする。 ◇主体的・協働的に課題解決に取り組むことができる。【主】
まとめる・いかす（5）	4 ふりかえりをする。 5 次時の活動を確認する。 ○大学の先生に来てもらって、みんなが疑問に思っていることを教えてもらう。	○ウェビングマップを比較して、気付いたことを出し合えたか、確認をする。 ○みんなから出た疑問点を大学の先生に送り、教えてもらうことを伝える。

(3) 板書計画



(4) 課題設定の判断基準表 (ルーブリック) Check

観点	主体的に学習に取り組む態度	授業者が想定する具体的な活動状況
レベル3	<u>自ら課題を決定</u> し、解決に向けた計画を <u>自分で立て</u> ることができる。	・ 自分で課題を決定することができる。 ・ 課題解決に向けた計画を、自力で立てることができる。
レベル2	<u>自ら課題を決定</u> し、解決に向けた <u>友達と相談しながら</u> 計画を立てることができる。	・ 自分で課題を決定することができる。 ・ 課題解決に向けた計画を、友達と相談しながら立てることができる。
レベル1	<u>課題を選択</u> し、解決に向けた <u>計画を書く</u> ことができる。	・ 課題を選択することができる。 ・ 友達の発表を聞いて、解決に向けた計画を書くことができる。

(5) 児童の自己評価 Check

レベル	学習のふり返し
3	・ 比較して気付いたことを発表することができた。
2	・ 比較して気付いたことを書くことができた。
1	・ 比較して気付いたことは書けなかったが、ウェビングマップを付け加えることができた。

7. 授業の改善の工夫 Action

(1) 個人への手立ての

評価の合致度	教材	場所	形態	時間	その他
教師の評価が高く 児童の評価が低い	当該児童から不十分だと思っている部分を聞き取り、その部分について教師が適切な評価を直接伝える。				
教師の評価が低い 児童の評価が高い	教師が当該児童へ、良い点を認めながら、改善すべき点に注目させ、まだ十分に伸び代がある部分を直接伝える。				
教師の評価が低い 児童の評価が低い	前回と今回のマップを見る観点を示す。	前に集合させる際に、教師の近くに配置する。	ペア学習を取り入れる。	ペアで話し合う時間を増やす。	比較する視点について個別に声をかける。

(2) 授業の改善案

教師と児童の評価	教材	場所	形態	時間	その他
レベル3が多かった	○	○	○	○	○
レベル2が多かった (レベル3に近づけるために)	○	○	ペア学習を取り入れる。	ペアで話し合う時間を増やす。	○
レベル1が多かった (レベルアップのために)	思考ツールを別のものにする。	友達のワークシートを自由に見て回る。			比較する視点を貼る。